

第20回 日・韓・中ジュニア交流競技会

報告書



日 時：2012年8月23日～29日

場 所：韓国 光州広域市

念珠テニスコート



団長

石原 弘也（全国高体連テニス部 副部長）

まずもってジュニア交流競技会を無事に終え帰国出来ましたのも関係各位のお力添えがあつてのことと感謝申し上げます。

8月23日～29日の日程で 韓国・光州広域市（ガンジュ）において「第20回 日・韓・中ジュニア交流競技会」が開催されました。光州広域市は、ソウルから南へバスで4、5時間のところに位置し比較的涼しいと聞いていましたが、風速70mを超えるスーパー台風の来襲もあって蒸し暑い中での練習や試合となりコンディション作りに苦労しました。また例年と異なり学生寮に寝泊まりし韓国の日常的な食事やテレビのない生活で日本の生活とはかなり異なり最初こそ食事が口に合わなかったり戸惑いましたが慣れるにしたがい選手達はうまく韓国的生活に溶け込み 最後には楽しんでさえいる様子でした。また他競技の選手との交流も深まり選手達にとっては 競技に集中でき良い環境でなかつたかと思われました。

今年も例年のように遠征前に立川ルーデンスで2泊3日の強化合宿を行いました。男子は本田監督、女子は吉田監督に精力的に指導していただき男子はゲーム形式を中心にハードな練習、女子は基本にたちかえり緩いボールを足を使って打つ練習やダブルスのフォーメーションの練習に時間をかけ遠征前にやりすぎではないかと思うくらいのハードな練習を繰り返し監督・選手とも手応えがあり自信をもってジュニア交流会に臨めました。選手同士が打ち解けあいチームJapanの意識を高めることも出来韓国に入ても姿勢は変わらず互いに協力して良いムードで試合に臨みました。

監督会議で日程や試合方法について長時間協議し以下のことを決めました。試合開始が、第1試合が9時半・第2試合が14時。男子がアウトドア4面、女子がインドア4面を使用。シングルスNo.1～No.4が一度に入りその後ダブルス。ダブルスは、ノーアドバンテージで ファイナルセットはスーパータイブレイク方式。

初戦は韓国戦。地元開催で例年以上に強化し女子は高校No.1の選手も揃えていると聞き緊張して試合に臨みました。今年の女子メンバーは、自立した選手が多く自分でコンディションを整え相手の特徴を見極め自分のペースで試合を進めることができるので安心して見ることが出来ました。シングルス3勝1敗 ダブルスでは敗れはしたが、難敵と思われた韓国に3勝2敗で勝利しました。男子は、韓国のパワーあるサービスや速いコートにてこずりシングルス1勝3敗 息のあったプレーでダブルスに勝利したが2勝3敗。手応えがあつただけに悔しい初戦の敗戦となりました。2戦目は、地元チームとの地元チームとの対戦。力の差こそありましたが丁寧なプレーと息のあったコンビネーションで5-0と男女とも完勝。試合後通訳を通じて地元チームと談笑する姿が見られ選手同士の親睦を深めることができました。最終戦は、中国戦。勝って帰国しよう、と男女とも団結して試合に臨んだ。女子は、シングルスNo.1の試合こそ敗れたもののそれぞれが持ち味を出した堅実なテニスで4勝1敗とし3年連続の優勝を成し遂げました。

男子は、シングルスNo.3の試合が4時間を超える戦いとなり白熱した展開となりましたが 韓国戦同様2勝3敗で3位に終わりました。

今年の女子の選手は、自立した選手が多くテニスにも生活にも落ち着きがある一方男子は、元気がよく試合や遠征を十二分に満喫していました。

日本の高校生の8人の選手は、同世代の韓国や中国の選手に負けないだけの実力があることを証明してくれました。技術的・戦術的に未熟な部分も多々ありますが勝ちたい！強くなりたい！という向上心がありまだ伸びる可能性を感じました。ワンランク上のテニスを目指し人間的にも大きく成長してくれる事を願っています。来年は是非男女とも優勝を！！ カムサハムニダ

役員 団長 石原 弘也 (全国高体連テニス部副部長)
事務局 新居 弘行 (全国高体連テニス部副部長)
監督 男子 本田 健児 (全国高体連テニス部常任委員)
女子 吉田 洋子 (仁愛女子)

選手 男子 長船 雅喜 (東山) 増尾怜央楠 (柳川)
堀切 啓貴 (相生学院) 切詰 魁 (高松北)

女子 辻 恵子 (早稲田実業) 岩井 綾音 (秀明八千代)
加治 遥 (園田学園) 安形 玲耶 (城南学園)



対戦結果

2012.08.25

男子	韓国	3 VS 2	日本
シングルス1	Yu Seong Un	1 (4-6/6-4/3-6) 2	増尾 恵央楠
シングルス2	Shin Geon Ju	2 (6-3/6-1) 0	長船 雅喜
シングルス3	Kim Seong Yuop	2 (6-2/6-2) 0	堀切 啓貴
シングルス4	An Hyun Soo	2 (6-1/5-7/6-1) 1	切詰 魁
ダブルス	Kim Seong Yuop/ Shin Geon Ju	1 (6-4/4-6/6-10) 2	増尾 恵央楠 堀切 啓貴

女子	韓国	2 VS 3	日本
シングルス1	Jun Nam Yeon	0 (2-6/6-7) 2	岩井 綾音
シングルス2	Jeong Young Won	1 (2-6/6-3/5-7) 2	辻 恵子
シングルス3	Park Sang Hee	2 (6-3/6-4) 0	加治 遥
シングルス4	Yoon Su Jin	1 (4-6/7-6/4-6) 2	安形 玲耶
ダブルス	Jun Nam Yeon/ Park Sang Hee	2 (6-4/6-3) 0	辻 恵子 加治 遥

2012.08.26

男子	光州市	0 VS 5	日本
シングルス1	Park Kyu Hyun	0 (0-6/0-6) 2	増尾 恵央楠
シングルス2	Yang Jae Mo	0 (0-6/0-6) 2	長船 雅喜
シングルス3	Jang Jae Hyuck	0 (2-6/0-6) 2	堀切 啓貴
シングルス4	Jeon Chan Joo	0 (0-6/0-6) 2	切詰 魁
ダブルス	Jang Jae Hyuck Yang Jae Mo	0 (0-6/0-6) 2	長船 雅喜 切詰 魁

女子	光州市	0 VS 5	日本
シングルス1	Hwang Ju Ri	0 (1-6/0-6) 2	岩井 綾音
シングルス2	Han Mi Ji	0 (1-6/2-6) 2	辻 恵子
シングルス3	Jo In Hoo	0 (0-6/2-6) 2	加治 遥
シングルス4	Oh Hye Jin	0 (0-6/0-6) 2	安形 玲耶
ダブルス	Hwang Ju Ri Han Mi Ji	0 (3-6/2-6) 2	岩井 綾音 加治 遥

2012.08.27

男子	日本	2 VS 3	中国
シングルス1	増尾 恵央楠	2 (6-1/6-0) 0	Li Zeyu
シングルス2	長船 雅喜	0 (5-7/4-6) 2	Gao Junlong
シングルス3	堀切 啓貴	1 (6-3/4-6/5-7) 2	Zhou Zhe
シングルス4	切詰 魁	0 (1-6/4-6) 2	Gao Tianjia
ダブルス	増尾 恵央楠 長船 雅喜	2 (4-6/6-3/10-7) 1	Gao Junlong Li Zeyu

女子	日本	4 VS 1	中国
シングルス1	岩井 綾音	0 (4-6/3-6) 2	Wang Yafan
シングルス2	辻 恵子	2 (6-4/6-0) 0	Guo Yizhao
シングルス3	加治 遥	2 (6-1/6-2) 0	Dong Rui
シングルス4	安形 玲耶	2 (6-2/6-4) 0	Meng Luxizi
ダブルス	岩井 綾音 辻 恵子	2 (6-1/6-1) 0	Wang Yafan Meng Luxizi



男子監督

本田 健児

全国高体連テニス部 常任委員

高体連テニス部の海外遠征試合として位置づけのある、この日韓中ジュニア交流競技会に男子監督として参加させていただき光栄に思います。また同時にその重責に対しプレッシャー、緊張感もございました。それを緩和してくれましたが事前の合宿でした。立川ルーデンステニスクラブをお借りして行った2日間の練習と生活を通し、選手同士はもちろん我々と選手間の緊張がほぐれ、日本代表としての意識も増し、全体の調子を上げる有意義な時間でした。この合宿を準備していただきました高体連テニス部の先生方には、心より感謝申し上げます。次年度以降もこの合宿を計画されますことをよろしくお願いします。

対戦内容は、初戦で韓国に2-3で破れ、2日目は地元の光州市に5-0で勝利し、3日目の中韓戦には2-3で惜敗し、3位となりました。初日の韓国戦で敗れ、今大会の勢いを削がれたことが全日程を通しての大きな反省点で、監督として敗戦のムードを払拭できなかつた事が大きく悔やまれます。大会を通じて感じたことは、対戦相手と大きな実力の開きがあるとは思えませんでしたが、大型選手の多い中国・韓国チームは、サーブ力が秀でており、さらに決め球に決定的な威力がある点など、日本チームとの違いを感じました。体格に劣る日本選手が大型の外国人選手相手にどのような試合展開すればよいのか、今大会で再確認させてもらいました。それは、やはりミスの量・場所そして『ミスの重さ』の問題だと思います。日頃練習の重点は、ショット全般にわたり向上を目指していますが、ゲームスタート時からマッチポイントまでミスがいかに抑えられるか、回避できるかが勝負を大きく左右するポイントだとあらためて気づかされました。ミスという面にもっとスポットをあて、練習テーマを再検討するという宿題ができました。

今大会で印象的だったのは、4人のメンバーの試合に寄せる意気込みのすごさでした。長船君と切詰君の両名は、初の海外遠征また日本代表ということもあり合宿から固く緊張感が伝わってきていましたが、いざ試合となると、長船君は、ボールに気持ちをよく込めて、持ち前のディフェンスからうまく攻撃へと転換しポイントする場面をよく目にしました。切詰君も相手に大きくリードされた場面から、あきらめず粘り強く追い上げてもう一步で逆転という場面が印象的でした。堀切君はチームのムードメーカー的存在で場を和ませ役でした。試合では中国戦のシングルスで一進一退の3時間半に及ぶ大熱戦を演じ、何が何でも勝ちたいという気持ちが前面に出てのプレーに、チーム一丸となり大声援を送っていました。最後に増尾ですが、全試合に勝利しました、No.1としてのプレッシャーは大きなものがあったと思いますが、国内での団体戦No.1の経験が大いに生かされたのだと思います。特に韓国・中国戦のダブルスは、勝敗決定後の試合でしたが、同じ負けでも負け方にこだわりたいという意気込みがプレーに表れた意味あるダブルス2試合でした。

最後になりますが、石原団長・新居先生・吉田先生には大変お世話になりました。また、このたび日本代表として本会に参加させていただき素晴らしい機会を与えていただきました日本体育協会・高体連テニス部には心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。



女子監督

吉田 洋子 仁愛女子高等学校

第20回日・韓・中ジュニア交流競技会に女子チームの監督として参加しました。このような貴重な体験をさせていただき、全国高体連、日体協の役員の皆様方には、厚く御礼申し上げます。大会の報告、私の所感を述べさせていただきます。

まず大会に先立ち、20～22日に立川市のルーデンステニスクラブで事前の強化合宿が始まりました。主将を辻恵子選手に決め、2時間ほど汗を流しました。メンバーはこの夏の疲れも見せず、みんな明るく元気にプレーしてくれました。大会に臨むに当たり、一番気掛かりだったのは、シングルスの順番をどう決めるかということとダブルスをどう組むかでした。ただ、この心配は杞憂に終わりました。さすが選抜、インターハイを戦い抜いたメンバーです。どの組み合わせでもうまく対応してくれました。こちらが求める以上のレベルの高いプレーを披露してくれました。

23日は移動日です。光州広域市まで一日がかりの移動でした。

24日は試合コートでの練習、開会式と監督会議です。開会式では地元の皆さんの大好きな歓迎を受けました。光州広域市伝統の太鼓の熱演、湖南大学テコンドー部の出し物など、強く印象に残りました。競技初日の25日は韓国戦です。相手の実力はまったく分かりません。ただ一つ韓国のコチ一陣から聞かされていたことは「今年は強い」と。敗戦への不安はすぐに払拭できました。選手はコートにもすぐ適応、普段通り、いや普段以上のプレーをしてくれました。結果は3－2の勝利。翌2日目は地元代表の選手との対戦です。正直、相手は経験が豊富ではなかったのではないかでしょうか。5－0で2連勝。最終日はいよいよ優勝を懸けた中国戦です。中国は、どの選手も体格を生かしたパワフルなテニス持ち味。粘りもありました。先陣を切ったNo.1岩井は立ち上がりに、相手のスピードとしぶとさに圧倒され敗れました。これをカバーしてくれたのがNo.2辻、No.3加治、No.4安形が見事勝利してくれました。辻は、持ち味の粘りと配球のよさを徹底、何度も相手の集中を切らし、見ているこちらが、何度も感嘆するほどです。加治はとても落ち着いており、攻撃的なプレーを随所に見せてくれました。安形はやや調子落ちしていましたが、修正点を見つながら試合を戦い、きっちり勝機をものにしました。

今回優勝できたのは、選手のレベルの高さ、奮闘はもちろんのこと、選手が戦いやすいようにと気配りしてくれた方々のおかげと感じております。すべてのベンチに新居先生に入っています。また、選手たちが集中しやすいよう、石原団長、新居先生たちが走り回り、サポートしてくれたことで、監督業に集中できました。

どの選手もレベルが高く、そして頑張ってくれました。敗戦の試合の中にも、勝利のチャンスは多々あったと思います。また、ミーティングなどで常々、マナー、ルール等について話をしたおかげで、選手はプレーに気持ちよく臨めたと思います。また、特に岩井、辻の2人は、試合に臨むためのコンディションづくり、コートに入るまでの臨むまでのリズムなど、自分なりの調整がきちんとできていたと思います。高校生はともすれば、そうしたプレー以外の部分は、指導者の言われる通り「受け身」となってしまいますが、2人は、そうした部分も「能動的」に取り組んでいると思います。こうした取り組みは、選手が将来独り立ちし、もっと上のステージを目指す上で重要度を増していくと思います。また独り立ちに備え選手に自ら考える癖を身につけさせることは、指導者に強く求められる資質になると思います。五輪や世界ツアなど、「世界の最高峰」を戦える選手の育成に向け、あらためて指導の勉強をしないといけないと感じました。

最後になりますが、尖閣諸島や竹島を巡り日本と中国、韓国の関係悪化が取りざたされていますが、スポーツの世界にまでは波及していません。スポーツに国境はないことを肌で感じた夏でした。



男子キャプテン

長船 雅喜 東山高等学校 3年

日韓中ジュニア交流大会ではたくさんの事を学び色々な課題を見つけることができました。今回の遠征が僕にとって初めての海外であることと初めての『Japan』を背負っての戦いということで、かなり緊張していました。まず日本での合宿で良い練習ができ、みんなとても良い状態でした。一日目からチームという感じで動けていたと思います。

初戦の相手は韓国チームでした。チャレンジャー精神でぶつかるのみと思い試合に挑みました。精神面では自分をつくれていたのですがなぜか、足が地につかない、思ったように打てない、日本とは違い恐ろしく跳ねるコートに戸惑いました。海外での試合の難しさを知りました。2-3で韓国チームに敗れてしまい、自分自身も勝利でチームに貢献できませんでした。

二戦目は韓国の地元広州チームでした。ここでは圧倒的な力の差をみせつけるのが男子チームの課題でした。しっかりと5-0で勝利し、5試合で合計2ゲームしかとられない圧倒的勝利ができました。

三戦目は中国チームでした。中国チームは皆気合いが入っていて、粘り強いテニスをしていました。この試合も自分の思うような展開にできず、跳ねるボールに苦戦してミスを連発してしまった接戦ではあったものの負けてしまいました。シングルスの結果で1-3となりチームの敗退は決まってしまったのですが、シングルスでの悔しさをダブルスにぶつけてなんとしても2-3にしたいという気持ちで望みました。序盤はミスを繰り返しリードされてしまったのですが、日本チームの力強い応援のおかげで途中からはすごく良いプレーができ勝つことができました。最終的には、日本男子チームは3位に終わりましたが、チーム一丸となって一生懸命戦えたと思います。最高の思い出ができました。

今回の試合で感じたのは、韓国、日本、中国の団体戦に対する考え方方が異なるという事です。韓国チームは韓国代表としての戦い方ではなく自分中心のプレーが多くみられ、自分の試合以外は興味がないという感じでした。ですがそういう所が韓国の強さなのかなと感じる場面もありました。対照的に日本と中国は団体、チームを重視しており、団結力が強さだと思いました。

試合後の観光も楽しみにしていたのですが、大型台風が直撃し日程がすべて中止になってしまいました。暴風域に入った時は、寮の壁が風で飛ばされたり、停電したり大変な状況でした。これもまた良い思い出となりました。

今回一番感じた事は海外で戦う難しさです。世界を転戦するトップ選手の対応力を、改めて凄いことなのだと思います。今大会で得ることのできた貴重な経験を日頃のチームメイトや自分を支えて下さっている方に伝えることが僕の役目だと思います。この経験を生かしこれから人間力、技術力、精神力を磨き、皆に憧れてもらえるような選手になれるように頑張ります。

最後に今大会の関係者の方々、引率して下さった先生方、サポートして下さった方々、日本男子チーム、女子チームの皆さん、お世話になり本当にありがとうございました。



増尾 恵央楠 柳川高等学校 3年

今回の日韓中遠征が私の初めての海外での試合だったので、好奇心や不安がいっぱいでした。まず、東京での事前合宿で遠征メンバーと練習をし、お互いを高め合いながらとても質の高い練習を行うことが出来ました。皆の調子も良く、とても良い形で韓国に入れたと思います。しかし韓国のコートはすごくボールが弾んだり滑ってきたりと、日本とは全く違うハードコートで調子を崩してしまったメンバーもいました。

初日の韓国戦では私の試合は接戦になりましたが、我慢強くプレーしてギリギリ勝つことが出来ました。堀切と組んだダブルスも自分達の役割分担をしっかりと決め手たことで、この試合を接戦で勝つことが出来ました。

二日目は地元の光州チームと試合をして皆圧勝し、とても良い雰囲気でプレー出来ていたと思います。この試合でチームの団結力はさらに高まりました。

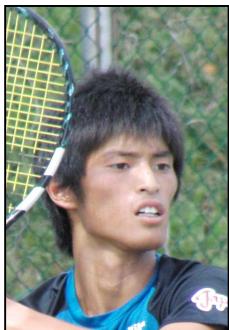
三日目の中国との試合では韓国の優勝が決まっていましたが、絶対に二位になるぞと全員で気合を入れて試合に臨みました。私はこの日はテニスの調子が非常良く、相手もあまり仕掛けてくるタイプの選手ではなかったので自分の思うように積極的なプレーが出来て勝つことが出来ました。とても楽しい試合になりました。ダブルスでもそのままの勢いで長船とお互いのプレーが上手く噛み合い、要所ものにすることができ逆転勝ちすることができました。

結果は、韓国に2-3・光州に5-0・中国に2-3と負けた試合は全て接戦でしたが、日本は3位で終わってしまいました。しかし、今回の遠征で学べたことが多くあったと思います。

海外での試合は審判にも相手にも英語じゃないと自分の意思を伝えることが出来なくて、大変苦労しました。これほど英語が重要だと思ったことはありませんでした。帰国後の英語授業には気合を入れて望みたいと思います。また、食事の面でも日本とは大いに違い、日本という国は食文化のすばらしさに改めて気付きました。

今回、韓国や中国のテニスの選手に勇気を出して自分から積極的に話しかけ、ずいぶんコミュニケーションがとれました。自分が創造していた異國の人たちの怖いイメージが払拭されました。この遠征をきっかけにして、今後テニスを通じてより多く海外経験を積み、多くの国の選手たちと交流を深めたいと望むようになりました。

最後になりますが、日本代表として日の丸を胸に戦えたことをとても誇りに思います。そして大会関係者、高体連テニス部の方々、石原団長、新居先生、本田監督、吉田監督、今回このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。心から感謝し終わりにします。



堀切 啓貴 相生学院高校 3年

このたびは第20回 日・韓・中テニス交流会の代表メンバーに選考していただきありがとうございました。

本番までの3日間に及ぶ事前合宿で大いに学んだことを本大会で発揮できず負けてしまったことはとても残念に思います。僕自身、海外の遠征は何度か経験したことはあるのですが、今回の会場のコートコンディションにうまく対応できませんでした。また、韓国・中国の選手は、日本人の選手のプレーにすばやく対応し、次のプレーの決断も的確でした。この点で日本チームとりわけ自分は劣っていると感じましたし、このことを今後課題にしなければならないと強く思いました。

事前合宿では本田先生から指導を受けながら、同時に自分たちで何をどうすれば相手を崩せるか、こう動けば相手にプレッシャーがかかるなど意見を出し合いチームとしての一体感・信頼感を初日から高め合い、プレーの調子を上げていきました。

韓国戦では、初戦ということもありとても硬くなってしまいせっかくの事前合宿で学んだことを充分に発揮できず、チームに貢献することができませんでした。自分の役目はシングルスで1勝して、流れをつくることだっただけにとても悔しいです。今まで自分たちの学校を背負って団体戦を戦ってきましたが、今回「日本」という国を背負って戦うということはとても大変なことなのだということを痛感しました。今年はオリンピックイヤーで僕は、体操競技の団体戦で個人総合では金メダルを取った内村選手が失敗してしまうシーンを見ていてあのような大舞台で自分自身の能力を存分に発揮することは世界選手権で優勝している内村選手でも難しいことなのだと思います。しかし内村選手はこの失敗の後、ノーミスで個人総合の金メダルを獲得しました。このように窮地に立ったときの対応と対策ができる内村選手を本当に尊敬しますし、自分もテニスという場面で、同じように行動できるようになりたいと、今回の遠征中に特に強く思いました。

今回、韓国・中国戦共に1-2でかかった状態で自分自身のプレーを存分に発揮することができませんでした。昨年男子は優勝していることを聞いていただけに、なんとしても連覇を達成したかったのですが、申し訳なくとても悔しい気持ちでいっぱいです。このような苦い経験を2度としないようにこれからテニス人生に繋げていこうと思います。関係者の皆様、遠征期間中は大変お世話になりました、ありがとうございました。



切詰 魁 高松北高等学校 3年

今回は、『日・韓・中ジュニア交流競技会』に参加させて頂きありがとうございました。日本代表として海外で戦うのは、僕自身初めての経験でとても緊張しました。しかしその反面、普段あまり戦うことのできない海外の選手と試合をすることはとても楽しみでした。日本チーム全員で『優勝』という目標を掲げていたので東京での事前練習から全員が一生懸命テニスに取り組むことができました。全国トップクラスの仲間たちと一緒に練習することで自分自身とても良い刺激となり、テニスの調子もコンディションも良い状態で韓国に入ることができました。

そしていよいよ大会が始まり、まず初戦は韓国代表の選手で1-6、7-5、1-6でした。しっかりと準備してきたのですが初めての国際試合ということで緊張し、ミスが増えたり、自分の持ち味のフットワークも悪く、とても課題が残る試合になりました。次の試合は光州代表の選手でシングルス、ダブルスともに6-0、6-0でした。韓国戦での課題だったことを特に意識してプレーすることができました。この日はとても満足な試合になりました。そして試合最終日は中国代表の選手で1-6、4-6でした。

全試合を通して海外の選手は、ミスが少なくて隙もなく、なかなか攻撃をさせてくれないプレーヤーばかりでした。

今回、日本代表として戦わせてもらってたくさんの課題を見つけることができたので、今後の自分のテニスにプラスになるようしっかり課題を克服していこうと思います。

最後に僕が今回の海外遠征で学んだことで特に印象に残った新居先生の言葉があります。それは「感謝の気持ちを日頃からしっかりと持っていなければいけない」ということです。韓国で生活して1番多く使った韓国語は『カムサハムニダ』でした。しかし、日本で生活している時『ありがとう』という言葉は照れくさくてなかなか言えません。強い選手になるには、テニスの実力につけるのは勿論のことですが、人間的にも大きく成長しなければいけないと思います。そのためにまずは、支えてくださっている人に感謝の気持ちを伝えることが大切です。僕は、『感謝』という大切な言葉をしっかりと心に刻み生活していこうと思います。そしてまた日本代表として海外で戦える選手になりたいです。

今回、僕たちをサポートしてくださった全国高体連はじめ、石原先生、新居先生、本田先生、吉田先生、そしてこの遠征に協力してくださった方々ありがとうございました。



女子キャプテン

辻 恵子

早稲田実業高等学校 3年

まず初めに、日中韓ジュニア交流会のメンバーに選んでいただき、とても嬉しく思います。ありがとうございます。

今回、日本での合宿から始まり、最初はとても緊張していました。私は、最後のインター一ハイ個人戦で勝つことができず、調子も良くなかったので、他の3人に迷惑をかけずにやっていけるかどうか不安でした。また、海外での試合が初めてだったので他の国の人とちゃんと戦えるのか心配でした。でも、集合してみると、みんな優しくて、楽しくて、何も遠慮することなくいいスタートを切ることができました。そして、3日間、東京で合宿した後、韓国に出発しました。

韓国では1試合目、韓国と対戦して、3-2で勝つことができました。私はシングルス、ダブルスの両方に出ていただき、内容は悪くはなかったのですが、大事なポイントのときに、積極的に攻めることができず、守りすぎてしまいました。2試合目は広州とで、この試合もあまり攻めることができませんでした。私はいつも調子のいいときには、前にいくことが多いのですが、この2試合を終えて、私は自分から攻めていくことができず、前にいくことができなかつたので、最後の中国戦は、攻めていこうと思いました。そして、シングルス、ダブルス共に出させていただき、相手のミスを待つだけでなく、コースを狙いにいくことができました。

チームは優勝することができました。

今大会は監督、引率の先生方、地元の方々がサポートしてくださいり、試合だけに集中することができました。また、他の3人のメンバーと一緒に戦えたことができて、優勝することができて、本当によかったです。ありがとうございます。今回、多くのことを学んだので、よかったところはそのままのばして、悪かったところはちゃんと改善していきます。本当にいい経験ができました。ありがとうございます。



岩井 綾音 秀明八千代高等学校 3年

この度は、日・韓・中ジュニア交流会に参加させていただきありがとうございました。メンバーに選ばれたことは、嬉しかったのですが、みんなとコミュニケーションを取れるか。国内合宿についていけるのか等、沢山の不安を抱えてこの遠征に参加しました。女子は3連覇がかかっているということを聞き、勝利に貢献できるか不安になりました。

3日間の国内合宿では、普段練習できないメンバーとレベルの高い練習をすることができました。ダブルスの練習も多くすることができ、ダブルスが苦手な私としては、とても良い経験となりました。この国内合宿を通して、自然とメンバーとも打ち解けることができ、良い形で韓国に向かうことができました。

韓国では、コートにも早く慣れることができ、とても良い状態で初日の韓国戦に臨むことができました。いざ試合となると日本の代表として恥じないプレーができるかどうか、心配になり、緊張しました。しかし、試合では集中することができ、自分の力を出し切ることができました。そして、チームとしても勝利することができ、とても嬉しかったです。この試合では、課題である自分にしかできないプレーを試合で出し切ることが、しっかりとできたので自分の中で大きな自信となりました。次の日の広州市との対戦では、苦手であるダブルスにも出場させていただき、国内合宿で練習した成果を試合で発揮することができました。最終戦は中国でした。シングルスでは、自分の力を出し切るよう努力しましたが、相手の技術力も高く、なかなか思うようなプレーをすることはできませんでした。しかし、課題点も多くみえた試合でよい経験となりました。この中国戦でもダブルスに起用していただき、シングルスでは負けてしまいましたがダブルスは、力を出し切ることができました。

この大会に参加し、レベルの高い選手とプレーをすることで自分の良さ、また課題点が明確になり、とても良い経験となりました。また、日本代表メンバー全員で勝ち取った優勝は、とても嬉しかったです。そして、日本の連覇記録を更新することができ良かったです。この経験を生かして、今後も技術向上に努めたいと思います。

最後になりますが、引率してくださった先生方、ご指導してくださった吉田監督、一緒に戦ってくれたメンバーのみんな、そして、大会関係者の皆様本当にありがとうございました。



加治 遥 園田学園 高等学校 3年

まず初めにこの日中韓ジュニア競技会に参加させていただき、ありがとうございました。選ばれた時は嬉かったし、不安よりも楽しみの方が大きかったです。

韓国に行く前に国内合宿がありました。女子は調子が悪く、3連覇がかかっていると聞き不安になりました。でも、吉田先生にご指導していただき良くなっていました。普段練習できないメンバーでできることもあり、とても充実していました。

3日間の国内合宿を終え、韓国に着きました。着いてもあまり実感はわきませんでした。でも1試合目の韓国戦では緊張しました。改めて日本代表として出させていただいている重みを感じました。私は負けてしましましたが、他のメンバーのおかげで勝つことができました。光州、中国戦は自分のテニスができ勝ちました。特に中国戦では、韓国に負けた分頑張ろう！と思っていたので、チームに貢献でき嬉しかったです。また、韓国、光州戦で出させてもらったダブルスでは、思いきって楽しくプレーすることができました。結果優勝し3連覇を果たすことができました。すごく自信になったし、貴重な経験になりました。韓国や中国の選手は私たちより体格が大きく、パワーもありました。その中で通用するもの、自分に足りないものを知ることができました。特にフィジカルやサーブ力はこれから鍛えていこうと思います。また外国という違った環境でどれだけ自分を持てるか、その大切さを感じました。そして、日本の団結力が1番強いと思いました。このメンバーで戦えてよかったです。

言葉が通じなかったり、文化が違う所で生活することはあまりないので、これからにプラスになると思います。そして競技以外のところでも交流でき本当に楽しかったです。

最後になりましたが、私達をサポートし指導してくださった先生方に本当に感謝しています。この経験を生かしもっと上を目指し成長していきます。ありがとうございました。



安形 玲耶 城南学園高等学校 3年

今回私はこの日・韓・中ジュニア交流競技会に参加することができ、とても良い刺激、経験をさせてもらいました。

まず東京での事前合宿から、意識やレベルの高い仲間と一緒に練習し、そして行動し、それぞれの考え方や姿勢など、私以外の人の良い所をたくさん学ぶことができました。国際試合の経験がなかった私には、今回日本代表として外国の選手と互角に戦えるだろうかとすごく不安でした。その中で私はとりあえず自分のテニスをし、外国人相手に挑もうと思っていました。いざ相手を目の当たりにすると、自分と同じ年と思えないほど体格が大きくパワーがありました。テニスの上手さは人それぞれだったものの、日本人に比べ、サーブの威力やパワフルさが上回っていました。私はそのプレッシャーで困惑し、力んだり平常心を失い、自分をアピールすることができず、勝つことはできたものの、内容は全然ダメでした。しかし今回経験を積んだことで、もう同じことは繰り返したくないし、試合中自分を盛り上げてしっかり集中し、自分の気持ちをコントロールすることができれば、たとえどんな相手だろうと関係なく思いきってプレイすることができると思いました。

その他にもう一つ私が感じたことは“団体”という意識です。今年の五輪でも「チーム力」というのは注目されていたように思います。自分がポイントを取ることによってチームの勝利に繋がる、たとえ自分が負けてもチーム仲間の応援をするなど、単純なことかもしれないけど日本は他のチームよりも意識し、できていたと思うので、良かったと思いました。

最後に、この大会に参加させてもらったのはここまで一緒に戦ってきた城南学園の監督や先生、チームメイトのみんなのおかげなので、本当に感謝します。そしてこの大会関係者の皆さん、大会期間中サポートしてくださった監督や先生方、本当にありがとうございました。